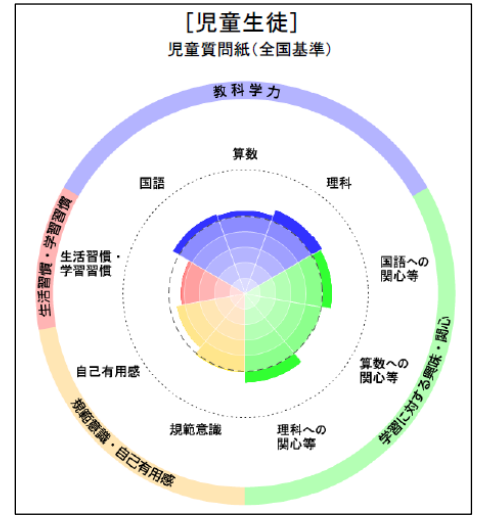


令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

6年生を対象に4月19日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。

そこから見た本校の指導の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への指導の充実や学習状況の改善等に、教職員が一丸となって取り組んでいきます。



国語

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) | | |
|-----------|---------------|---------------------|----------|----------|--------|
| | | | 本校 | 神奈川県(公立) | 全国(公立) |
| 全体 | | | 69 | 65 | 65.6 |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 5 | 69.8 | 65.6 |
| | | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 0 | | |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 1 | 77.0 | 73.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 2 | 68.0 | 66.3 |
| | | B 書くこと | 2 | 58.0 | 47.9 |
| C 読むこと | | 4 | 70.8 | 69.5 | |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 6 | 71.0 | 66.8 | |
| | 思考・判断・表現 | 8 | 66.9 | 63.3 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | 選択式 | 8 | 76.5 | 72.9 | |
| | 短答式 | 3 | 63.0 | 57.4 | |
| | 記述式 | 3 | 53.3 | 50.6 | |

<知識及び技能>

- 全国平均的な正答率となっている。
- 言葉の特徴や使い方に関する事項の、話し言葉と書き言葉の違いについて答える問題では、全国平均に比べ、93%と高い正答率になっている。
- ▲言葉の特徴や使い方に関する事項の、漢字を文の中で正しく使う問題では、全国平均を上回っている項目もあれば、全国平均 58%に対して正答率が 51%とやや低い項目がある。漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することで、漢字を文の中で正しく使う感覚を身につけていく必要がある。

<思考,判断,表現>

- 平均正答率は全国を上回っている。
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題や、文章の中に入る適切な内容を選択する問題では全国平均を上回っている。

算数

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) | | |
|-----------|---------------|----------|----------|----------|--------|
| | | | 本校 | 神奈川県(公立) | 全国(公立) |
| 全体 | | | 65 | 64 | 63.2 |
| 学習指導要領の領域 | A 数と計算 | 6 | 71.2 | 69.4 | 69.8 |
| | B 図形 | 4 | 65.0 | 64.9 | 64.0 |
| | C 測定 | 0 | | | |
| | C 変化と関係 | 4 | 54.0 | 53.3 | 51.3 |
| | D データの活用 | 3 | 72.0 | 69.5 | 68.7 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 9 | 68.7 | 69.0 | 68.2 |
| | 思考・判断・表現 | 7 | 60.7 | 57.5 | 56.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | 選択式 | 6 | 54.0 | 53.9 | 51.8 |
| | 短答式 | 6 | 76.0 | 77.0 | 76.5 |
| | 記述式 | 4 | 65.8 | 59.5 | 60.2 |

<知識及び技能>

- 平均正答率は概ね全国平均通りである。
- 図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、構成の仕方について理解していると考えられる。
- △二つの数の最小公倍数を求める問題に苦手意識がある。

<思考,判断,表現>

- 平均正答率は全国を上回っている。
- 示された場面を解釈し、その方法で求めることができる理由を記述することができる児童が多かった。
- △示されたプログラムで描くことができる図形を選ぶ問題では、不正解や無回答が目立った。プログラムにおける回転する角の大きさと繰り返す回数を変えることで、正多角形を作図することができるというよさを実感できる指導をしていく必要がある。

理科

| 分類 | 区分 | 対象問題数 (問) | 平均正答率(%) | | | |
|------------------|---------------|----------------|----------|-----------|---------|------|
| | | | 県校 | 神奈川県 (公立) | 全国 (公立) | |
| 全体 | | 17 | 69 | 63 | 63.3 | |
| 学習指導要領の 区分・領域 | A区分 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 4 | 57.3 | 51.8 | 51.6 |
| | | 「粒子」を柱とする領域 | 5 | 68.2 | 59.5 | 60.4 |
| | B区分 | 「生命」を柱とする領域 | 5 | 79.2 | 75.6 | 75.0 |
| | | 「地球」を柱とする領域 | 5 | 69.4 | 64.9 | 64.6 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 6 | 68.5 | 61.8 | 62.5 | |
| | 思考・判断・表現 | 11 | 69.7 | 64.2 | 63.7 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | | |
| 問題形式 | 選択式 | 11 | 71.8 | 67.7 | 66.8 | |
| | 短答式 | 3 | 75.0 | 64.1 | 66.2 | |
| | 記述式 | 3 | 54.3 | 46.5 | 47.3 | |

<知識及び技能>

- 平均正答率は、神奈川県及び全国を上回っている。
- 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く問題では、90%と高い正答率になっている。神奈川県・全国の正答率を、大きく上回っている。
- ▲水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかの問題では、正答率が 54%で神奈川県・全国平均より低い。実験などを通して、実感をもって知識を得ることができるようにする必要があると考える。

<思考,判断,表現>

- 平均正答率は、神奈川県及び全国を上回っている。
- 「生命」を柱とする領域の自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題では、正答率が神奈川県・全国よりも 10%ほど上回っている。
- ▲観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるという問題では、神奈川県・全国平均を上回っているものの、正答率が40%と低くなっている。実験では、結果から考察することを重点的に行い、一人ひとりが自分の考えをもつことができるように指導していく必要がある。